

第1回京都市洛西地域公共交通会議 摘録

日 時：令和4年7月26日（火）午前10時～正午
場 所：京都市西京区役所洛西支所 2階大会議室
出席者：別紙出席者名簿のとおり

1 開会

○ 事務局（開会挨拶）

第1回会議の開催に当たり、事務局を代表して一言挨拶を申し上げます。

本会議は、洛西地域における、地域の需要に応じた交通輸送の確保や、地域の実情に即した輸送サービスの実現に必要な事項を協議するために、本日設置するものである。

本市では、人と公共交通優先の「歩くまち・京都」の実現に向け、市民の皆様、事業者、行政等が一体となって様々な取組を進めた結果、クルマ利用が公共交通等に一定シフトするなど、その成果が表れているところである。

一方で、交通事業者は、これまでからも少子化による利用者減少、運転士の担い手不足など厳しい状況に置かれていたが、新型コロナウイルスの影響により、現在さらに厳しい経営環境に陥っているところである。

このような状況下ではあるが、洛西地域は2つの鉄道会社の駅が街の玄関口の役割を果たし、その駅との間を4つのバス事業者が結ぶという輸送形態を担っている。今後、各社が連携するなど、工夫次第では、事業者の経営改善を図りながら、利便性を確保することについても期待出来る地域ではないかと思う。

本会議では、地域の皆様をはじめ、交通事業者、関係行政機関、学識経験者といった幅広い関係者で、幅広い観点から公共交通について議論し、地域の足を持続可能なものとしていくために、何が必要かなど検討してまいりたいと考えている。

2 委員紹介

— 事務局から京都市洛西地域公共交通会議委員の紹介（資料1） —

3 京都市洛西地域公共交通会議の設置について（事務局説明）

(1) 設置趣旨、経緯、協議範囲等

○ 事務局

（資料2に基づき、説明）

(2) 洛西地域公共交通利便性向上ワーキンググループの取組について

○ 事務局

（資料3に基づき、説明）

4 議題

(1) 京都市洛西地域公共交通会議設置要綱の承認について

○ **事務局**

(資料4に基づき、説明)

○ **平山委員 (ヤサカバス)**

設置要綱の第2条(協議事項)に「運賃・料金等に関する事項」とあり、各社協力して実施することを協議していくことになると思うが、各社の事業計画で運賃改定を検討する場合も、本会議で協議を行うのか。

○ **事務局**

「協議運賃」について検討する場合は、本会議での議決が必要になる。

○ **平山委員 (ヤサカバス)**

「協議運賃」とは何か。

○ **事務局**

通常の運賃改定は、各事業者が国へ認可申請を行い、認可を受ける手順になる。

他方、協議運賃とは、特定地域における運賃について、地域公共交通会議の中で協議のうえに設定する方法である。

○ **木原委員 (京都運輸支局)**

事務局からの説明のとおり、各社が自らの原価計算に基づいて運賃を設定していくというのが基本ルールである。

例外として、地域公共交通会議で協議のうえ、関係者の承諾がある場合、任意の運賃設定を採用することができる。しかし、自社の原価計算で算出した運賃ではなく、事業者にとって収支が合わない場合等もあるので、協議は慎重にお願いしたい。

○ **足立委員 (タクシー協会)**

設置要綱の(協議事項)第2条第2項に「自家用有償旅客運送」の記載があるが、本会議で協議を予定しているのか。

それとも、国の手引き等から引用して記載したものなのか。

○ **事務局**

現時点では「自家用有償旅客運送」について、協議する予定はない。

御指摘のとおり、国の手引きを基に記載している。

○ **事務局から会議設置要綱の案を示し、その承認を求めたところ、全員異議なく、これを承認し、本案は可決された。**

(2) **会長の選任及び職務代理者の指名について**

○ **委員の互選により宇野委員を会長に選出**

○ **事務局**

宇野委員、会長への御就任について御承諾いただけるか。

○ **宇野会長（京都大学）**

承諾する。

○ **宇野会長の指名により職務代理者に井上委員を選出**

○ **井上委員（龍谷大学）**

承諾する。

○ **宇野会長（京都大学）**

皆様の協力を得ながら、会議を進めていきたく思うので、宜しくお願い申し上げます。

少子高齢化に伴う公共交通の利用者の減少、運転士不足、さらには新型コロナウイルスの影響で、公共交通事業者は非常に厳しい状況にある。公共交通を持続可能なものにしていくためには、表裏の関係にある利便性の向上も考える必要がある。「利便性」と「持続可能性」、この2つをどうバランスを取りながら、洛西地域の公共交通の在り方を考えることが重要である。是非とも、皆様から忌憚のないご意見をいただきたい。

○ **井上委員（龍谷大学）**

平成20年は約110万人が大型2種の免許を取得していた。しかし、10年経過した平成30年は約86万人に減った。また、平成20年時点のバス運転士の平均年齢は46歳位であったが、10年経過した平成30年は52歳位にまで上がっている。このままいくと、運転士が減り、バスの運行を増やすことは難しい状況となり、交通事業者はさらに効率的な運営を行い、利用者は賢く利用することが求められることとなる。

洛西地域の公共交通について、バス・鉄道・タクシーと様々な移動手段を念頭に入れながら、皆様と知恵を出して協議を行いたいと思う。

(3) 京都市地域公共交通計画の策定及び協議会の設置について（報告）

○ **事務局**

（資料5に基づき、説明）

(4) 今後のスケジュールについて

○ **事務局**

（資料6に基づき、説明）

(5) 洛西地域の概要及び公共交通に関する状況について（事務局説明）

○ 事務局

（資料7に基づき、説明）

(6) 洛西地域におけるモビリティ・マネジメントの取組について（報告）

○ 藤本委員（福西自治連合会）

（資料8に基づき、説明）

福西地域からJR桂川駅へのアクセス向上に向け、署名運動や勉強会など、地域で様々な活動に取り組んだ結果、市バス特西4号系統の運行が開始され、さらに増便も段階的に実現された。それでもなお、朝夕の通勤・通学時間帯における利便性向上が課題であり、現在も増便に向けて取り組んでいるところである。利用が多くなると増便は難しいので、住民への呼びかけを継続している。今後とも、地域と事業者で協力して取り組んでまいりたい。

(7) 交通事業者からの報告

○ 宇野会長（京都大学）

洛西地域は、人口の減少と少子高齢化の進行が著しく、全国的な傾向と同様に、バスの利用者が減少傾向にある。また、新型コロナウイルスの影響を大きく受けており、公共交通事業者は厳しい経営状況に置かれている。

公共交通事業者の現状について、委員の皆様と共有を図り、今後の本会議での公共交通の維持・確保に向けた取組の議論に活かしたい。交通事業者の委員の皆様から、資料9に基づいて、説明をお願いする。

○ 山本委員代理（京阪京都交通）

新型コロナウイルスの影響で、路線バスの運賃収入は大きく減少し、徐々に回復しているものの、未だ8割程度までしか戻っておらず、非常に厳しい状況である。また、原油価格の高騰により、経営を圧迫している。

これまでから長年、洛西地域で運行を続けてきたので、今後も地域の担い手として頑張りたい。地域内のバス事業者4社で連携し、知恵を絞れば、持続可能なバス運営が可能ではないかと思う。本会議を活用して有効な策を考えていきたい。

○ 田中委員代理（阪急バス）

大原野線（JR向日町駅～阪急東向日駅～大原野地域～洛西バスターミナル）については、利用者数の減少に伴い、段階的に減便を行ってきたが、2020年度に大幅に減便を行った。

この会議の主な目的である利用促進や利便性向上については、長期の積み重ねが重要と考えている。利用促進の取組を地域の方へどう落とし込むかというところまで議論してもらいたい。

○ 平山委員（ヤサカバス）

新型コロナウイルスの影響で、収入が大きく減少している。当社の事業規模が決して大きくない中、ICカードの未導入など御不便をお掛けしているが、前向きに努力してまいりたい。

○ 児玉委員（京都市交通局）

新型コロナウイルスの影響で、令和3年度も令和2年度に引き続き、お客様数及び運賃収入が大幅に減少しており、極めて厳しい経営状況である。これまでから地域を運行するバス事業者4社で力を合わせて利便性向上に取り組むとともに、地域の皆様とのMM（モビリティ・マネジメント）の取組など公共交通の利用促進に取り組んできた。今後とも地域にお住まいの皆様の生活を支える交通インフラとしての役割を果たせるよう努力するとともに、本会議の議論を通じて、事業者間の連携をさらに深め、利用者にとっても、事業者にとっても良い方向を目指したい。

○ 中村委員（阪急電鉄）

新型コロナウイルスの影響により、定期外利用を中心に輸送人員は大きく減少し、直近でもコロナ禍前の8割程度の状況であり、桂駅、洛西口駅、東向日駅も同様である。2018年に開業したTauT 阪急洛西口について、地域の皆様の協力をいただきながら賑わいの創出に努めており、更に御利用いただくことで、地域の活性化に貢献したい。

○ 事務局

（西日本旅客鉄道から提供いただいた資料を基に説明）

(8) 意見交換

○ 片岡委員（西京区自治連合会 副会長、新林学区自治連合会）

交通事業者が努力したおかげで、公共交通を便利に利用しているが、洛西ニュータウンの住民の中には「地下鉄が来なかった」という不満を未だに持っている人もいる。

洛西地域の活性化のためには、鉄道駅から洛西バスターミナルにもっとバスが集まり、ニュータウン内を循環するような形にできないか。

洛西ニュータウンだけでなく、桂坂・大原野地域も含めて、洛西地域全体で連携して利便性向上を議論してほしい。また、洛西～桂駅間の輸送と洛西～桂川駅への輸送の配分について、桂川駅への輸送を充実してほしい。

○ 藤本委員（福西自治連合会）

洛西ニュータウンは高齢化により昼間人口が多く、ラクセーヌへ買い物に出かける高齢者が多い。若者にとっては鉄道駅へのアクセスも重要だが、高齢者にとっては、洛西バスターミナルと洛西地域内を循環するバス路線へのニーズが高く、充実してもらいたい。

○ **能登委員（西京区地域女性連合会）**

入居時の45年前に比べると乗継などバスが充実して便利になった。ただ、若い人が地域に定着しないので、何とかならないかと思う。

○ **小石委員（西京区自治連合会 会長）**

バス路線が洛西ニュータウンと鉄道駅へのつながりが中心となっているので、桂坂、大原野から洛西ニュータウンへ向かう循環ができると、人との交流、まちの活性化につながるのではないかと。

○ **竹内委員（バス協会）**

交通事業者から厳しい経営状況を報告してもらったが、是非ともバスを利用してもらいたい。切に願います。

○ **澤井委員（西京警察署）**

西京署管内の交通事故の発生件数は減少傾向（H30：約400件→R3：265件と2/3程度に減少）にあるが、高齢ドライバーが当事者となる交通事故の全体に占める割合は、洛西地域内は36.4%、他の西京署管内の地域は26.4%と、洛西地域が高い割合となっている。洛西地域内では交通網が発達しているので、運転免許を返納し、公共交通を利用してもらうことも有効な策の一つであるとする。

○ **事務局**

地域の委員の皆様から御意見いただき、御礼申し上げます。地域内を循環し、まちの活性化につながる公共交通を求める声が多かったが、現在も、完全な循環形態ではないものの、洛西地域内を周ってバスターミナル・境谷大橋にアクセスするバスはある。公共交通は、まちの活性化に向けた取組の一つであると考えており、今後も皆様から意見をいただきながら、交通事業者と協議し、何ができるのかを検討していきたいと思う。

○ **平山委員（ヤサカバス）**

道路渋滞などバスの走行環境の問題は、タイヤが乱れるので利便性に直接関わってくる。阪急電鉄が一部区間を高架化されたことで駅周辺の渋滞が緩和された。一方で、北福西町や境谷大橋、新林公団住宅付近など、新たに交通渋滞が発生、または交通量が多くなり、バスの運行に影響が出ている箇所がある。こういった走行環境課題についても議論していただきたい。

○ **児玉委員（京都市交通局）**

路線バスは、通勤・通学、買い物や通院など様々なニーズが重なる中、事業者は多くの方に利用いただけるように運行経路・ダイヤ等を考えている。

地域内を循環する路線の御要望については、特西4号系統、西8号系統が洛西ニュータウンの各地区を結んでいるので、地域内の交通としても御利用をお

願いたい。

今後、昨年実施した市バス旅客流動調査の結果も踏まえながら、より多くの方に便利に利用してもらえよう工夫してまいりたい。

○ 田中委員代理（阪急バス）

会議やイベントを開催する際には、バスのダイヤに合わせた開催時間に設定するなど、公共交通機関の利用を促進する取組をお願いしたい。

○ 木原委員（京都運輸支局）

洛西地域ではバス事業者4社が創意工夫を凝らして充実した運行をされている。コロナ禍で危機的な経営状況の中で、今後も、事業者間の連携をさらに深めてもらいたい。

○ 山中委員（京都市西京区役所洛西支所）

洛西地域、とりわけ洛西ニュータウンは人口減少が進展し、まちの活力が失われつつある。若者・子育て世代の人口流入に向けて、住宅・子育て環境・福祉施策等、総合的に考えていく必要があるが、交通環境は非常に重要である。

洛西ニュータウンの住民は、地下鉄が来ることを前提にここを選択された方々ばかりであり、バスの利便性は確保しながら、持続可能なものとするためには、今ある輸送資源で考えていく必要がある。

まちの賑わいづくりとしては、鉄道駅との結節も重要で、タウンセンターの賑わいのためには、現在のニュータウン内を回ってからバスターミナルへ入るバスではなく、鉄道駅からまず洛西バスターミナルに入ってニュータウン内を回るルート変更も検討してはどうか。一方で、バスの経路変更や輸送配分の見直しについては、便利になる人もいれば不便になる人もいることや、敬老乗車証が利用できるかなど、様々な観点で検討が必要である。

○ 上田委員（京都市西京区役所）

洛西地域から鉄道駅に向かうバス路線の多くは本所管内を経由するので、洛西支所・本所管内合わせて利便性向上が図れたらよい。

○ 矢内委員（京都市歩くまち京都推進室）

公共交通は厳しい環境に置かれているが、その中で洛西地域の公共交通をどのように維持・確保していくのかを議論する場と考えている。交通事業者、地域、行政等の様々な関係者がそれぞれの立場で主体的に役割を果たしていくことが必要と考えている。洛西地域は交通事業者、地域、行政が連携して公共交通の利便性向上に向けて取り組んできた素地がある。複数の路線バスや鉄道駅、タクシーといった交通資源をいかにうまく活かし、バス事業者4社が社局の垣根を越えてシームレスに利用できる環境づくりが大事であると考えている。京都市内の他の地域でも、市バスと民間バスが連携し、便利になったという事例がある。洛西地域においても、様々な課題はあると思うが、一つ一つの課題を乗り

越え、皆様と議論を重ねながら、少しずつでも連携した取組を進めてまいりたい。

○ 井上委員（龍谷大学）

本会議では主に公共交通に関する議論を行う場であるが、公共交通は目的があってはじめて利用するものであることから、まちづくりのことも念頭に置いて議論する必要がある。特に、洛西地域は高齢化率が高いが、他の高齢化率が高い市町では路線バスを維持できない地域も多く、そうした危機的な状況になる前に、まちづくりをどうしていくかということも意見交換したい。

バスは不便というイメージがあるが、洛西地域はバスと鉄道がしっかり結節し、便利である。バス待ち環境の整備等、公共交通の魅力を高め、発信できるとよい。

洛西地域内で若い世代が増えている地区もある。洛西地域の緑豊かな子育て環境等の魅力をさらに高め、発信していけたらよい。バスを便利に利用できるよう、駅周辺の送迎や違法駐停車をなくすなど、子育て世代にも魅力を訴えていけたらよい。

今は、利用促進をすることで何とか現状維持されるという状況である。今後、利用促進しない地域は公共交通が減っていく可能性が高いので、皆さんとさらに取組の展開を検討してまいりたい。

○ 宇野会長（京都大学）

洛西地域はバス事業者4社が運行しており、鉄道駅も近く、タクシーも充実しているというのは、地域の大きな強みで魅力である。このポテンシャルをどう活かしていくかということを経験いただきたい。

特に、高齢化が進み、ニーズが変化してきたことを踏まえ、今後のまちづくりと公共交通の在り方を議論いただきたい。

改めて、本会議の議論の方向性は、地域内の公共交通事業者間（バス、鉄道、タクシー）の連携を図り、効率的で持続可能な交通体系及び利便性向上策を検討していくことを本日の総括とさせていただく。

5 その他

○ 事務局

今年秋ごろに第2回会議の開催を考えている。

具体的な日程は、改めてお知らせする。